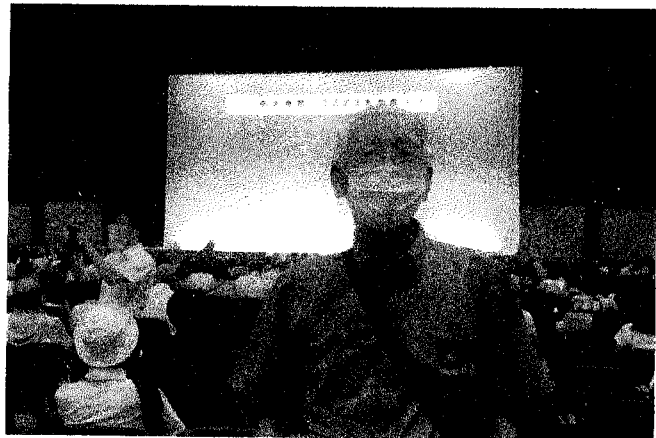


# 日本共産党市議会議員団 週刊議会報告

発行  
日本共産党市議団  
岡野長寿  
0845-22-2596  
魚谷さとる  
0848-22-2810

## 「核抑止論」でなく「核兵器禁止条約」を 「原水禁2023年世界大会ヒロシマデー集会」



大会に参加した魚谷さとる市議

大会では被爆者や海外代表の方々、地元の松井一実広島市長、共産党の志位和夫委員長などが挨拶や核兵器廃絶などについて語りました。

8月6日、広島アリーナで「原水爆禁止2023年世界大会ヒロシマデー集会」が開催され、全国から核兵器廃絶を願う約1500人が参加。共産党市議団から魚谷さとる市議、5区の猪原まゆみ予定候補も参加しました。



会場を埋める約1500人の参加者

被爆者でもあり、マスコミにも登場して核兵器禁止条約の必要性を訴えてきたカナダ在住のサーロー節子さんは、「バッシングに苦悩したものの、被爆者としての使命感を新たにしました。国連の会議に参加するようになる」と、核大国の横暴ぶりを目にしました。しかし、被爆者の悲願である核兵器禁止条約のよ

うな新たな扉を開けることができ「と力強く語りました。大会に参加した魚谷市議は、「多くの発言者に共通していたのは、核抑止論では核兵器をなくすことはできない。核兵器をなくす道は核兵器禁止条約の道しかなく、世界最初の被爆国である日本政府は真つ先に署名、批准すべきだ。ところが岸田首相は、アメリカの核の傘に入り込んで核抑止論を主張している。核兵器をなくすためにも岸田自・公政権にはやめてもらわなければ」と語っています。

### 共鳴する広島市長、サー口節子さん、志位委員長の訴え 岡野市議は尾道会場に参加、核兵器廃絶の決意かためる！



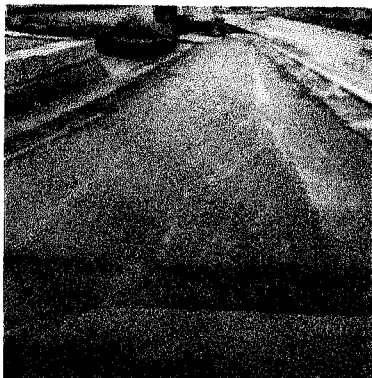
感銘を与えたサー口節子さんの訴え

原水爆禁止世界大会ヒロシマデー集会では多くの発言者が「核抑止力論」からの脱却を主張、G7サミットで日本政府がとった態度に批判が集中しました。松井一実市長は、平和記念式典で「世界の指導者は、核抑止論は破綻していることを直視し、私たちが厳しい現実から理想へと導くために、①核抑止論の見直し、②核兵器禁止条約の締結、③核軍備縮小・撤廃の交渉を行う義務の履行（NPT6条）をあげ、「核抑止とはいざという時は核兵器を使用し、広島・長崎のような非人道的惨禍を引き起こしかねない議論であり、被爆地から世界に発信したことは恥ずべきことだ」と糾弾しました。



尾道会場ではオンラインで参加

### 栗原小学校への通学路が改善



栗原町6868番地付近

昨年末に共産党市議団が行った市民アンケートに寄せられていた「道路がデコボコで危険」の訴えを共産党市議団が取り上げ、平らに改善され、近所の方々から、「これで安心」と喜ばれています。

- 「世界大会にメッセージを寄せた県内市長」
- 尾道市 平谷裕宏
  - 広島市 松井一実
  - 廿日市市 松本太郎
  - 三原市 岡田吉弘
  - 東広島市 高垣廣徳
  - 安芸高田市 石丸伸二